

勝山市総合行政審議会（第11期第7回）結果概要

- 開催日時 平成22年9月24日（火） 午後2時00分～午後4時00分
- 開催場所 市役所3階 第2会議室
- 出席者等 出席委員 13名
事務局 企画財政部未来創造課

1 会長あいさつ

2 審議

(1) 平成21年度勝山市政策基本目標管理外部評価について

1. 市民が参加する21世紀の夢のあるまちづくり
2. 少子、長寿化等に対応した人にやさしいまちづくり

○事務局

資料に基づき1ページずつ説明

【質疑応答】

市ホームページの充実について

●委員

- ・評価理由のマイナス要素として更新指導が不十分とあるが、今年度においては更新指導の不十分なところは解消しはじめているのか。

○事務局

- ・各課が温度差なくいろいろな情報を市民に伝えていくということでの仕組み作りをしているところ。チェック機能を持たせるようなやり方を検討中である。

●委員

- ・内部評価は4だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし

市広報の充実

●委員

- ・写真を使って見やすくなっていると思う。市民の関心をどう引きつけるかという課題はずっと残っていくと思うが、私は楽しく見せていただいている。

●委員

- ・昨年は広報とお知らせ版の内容が一部同じであったと思う。両方の紙面を見てみないと分からないこともあった。

○事務局

- ・昨年の4月から月2回の発行がスタートした。スタート時点で内容の振り分けが一部重複していたかもしれない。

●委員

- ・市民としては随時新しい情報がほしい。ここを見れば知りたい情報があるということが紙面上で線引きができるといい。また、年配の方ほど広報を見るのが少ない。広報のあり方と

して活字以外の方法でまんべんなく伝える方法が必要だと思う。

●委員

- ・内部評価は5だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし

●委員

- ・以前の総合行政審議会で要望のあった「歴史の散歩道」が冊子化された。このような単行本化なども視野に入れながら、広報を発行してほしい。

市長となんでも語ろう会

●委員

- ・参加者数に市役所職員も含まれているのか。

○事務局

- ・担当は入っていないが、他の職員はカウントしている。なかなか参加者を集める効果的な方法がない中、前回よりも多くの参加者を集めることを目標に開催している。

●委員

- ・平成19年度は何人が参加したのか。

○事務局

- ・トータルで283名。平成19年度は年4回開催しているので、平均約70名。

●委員

- ・平成21年度の平均が127名だから、ずいぶん増えている。今後も、元気な高齢者や若者にもっと参加してもらえようシステムを考えてほしい。
- ・内部評価は4だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし

エコミュージアムの推進

●委員

- ・個人の住宅、お庭も、中吉座と同じように開放したのか。

○事務局

- ・中吉座は内部に様々な展示を行っており、シアターの設備も整っている。個人の住宅は基本的に中庭の部分だけの開放を行った。

●委員

- ・試験的とはいえ、様々な取り組みを行っていて非常に良い。ただ、これらの取り組みを今後どのようにしていくのが課題。

●委員

- ・4部会とは何か。

○事務局

- ・「ちゃまトク部会」では、地元の特産物を活かした商品開発やコミュニティビジネスの研究、伝承料理の普及などを行っている。「恐竜のまち推進部会」では、ジオパークの推進や恐竜を主なテーマとした取り組みを行っている。「自然環境部会」では、自然環境に対する事業の取りまとめや体験事業などを行っている。「きらりシティ部会」では、まちなかの活性化ということで、『夜桜と夜のまちなみ見学』『まちなかミニ博物館』の開催や、マップ、案内人の育成などを行っている。

●委員

- ・協議会の下部組織がより具体的に見えてきたことで、若者も増えたと評価したのか。

○事務局

- ・若者の参入といっても、エコミュージアム協議会そのものは、市長から委嘱を受けた固定メンバーで活動をしている。協議会の下に自由に参加できる分科会を設けて、若い人の活動や参加ができるようになった。

●委員

- ・平成21年度に自立した団体はあったか。

○事務局

- ・エコミュージアム協議会そのものの自立ができないか、4部会の活動活性化によって全体のまちづくりの幅が広がらないかと考えている。わがまちげんきの事業補助を受けたことのある団体としては、すでに企業化したものもあるし、現在助成を受けている団体の中にも、一部の団体に自立の動きがある。
- ・わがまちげんきの助成率を縮小することで、自立を促し、コミュニティビジネスに進展している団体が出始めていることから内部評価としている。

●委員

- ・内部評価は4だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし

地域間における情報通信格差の是正

●委員

- ・北谷地区のブロードバンド通信サービスの提供はいつから始まるのか。

○事務局

- ・ADSLの導入による平成22年度中のサービス開始に向けて通信事業者と準備を進めている。

●委員

- ・地デジの受信状況はどうなっているのか

○事務局

- ・難視指定を受けた地区での施設整備はすべて終了した。

●委員

- ・北谷のサービス開始が遅れたのは、どこで遅れたのかが問題。行政側か業者側か、どちらが原因となっているのか。不可抗力によるものならば、評価ができない。

○事務局

- ・当初は、平成21年度で整備方法の検討を終える予定だったが、平成22年9月頃まで延びてしまった。遅れた理由は、ADSLでの整備を予定していたが、途中で事業者からの打診もあって、光ファイバーでの整備ができないか研究を行ったため。結局、同じ予算内での光ファイバー整備は無理ということが分かり、当初の予定通りのADSLでの整備ということになった。

●委員

- ・内部評価は4だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし

これから世代への支援

●委員

- ・家族単位での移住を対象としているのか。

○事務局

- ・もともとは、団塊の世代が都市部で退職されて、ふるさと回帰への流れをどう受け止めるかがスタートだった。1回目のピークが過ぎたことから、若い世代のふるさと回帰の流れも含めている。家族で来られるかたもいれば、若いかただけ、年配のかただけなど様々なケースがあるが、それぞれに対応している。

●委員

- ・移住してきた方の一番の不安は雪。勝山の重い雪は、体験してみて初めて、イメージしていた雪との違いが分かる。行政としても、ただ来てくれたから良かったではなく、その後のサポートも考えてほしい。外から来た人でも長く住み続けたいと思えるようなまちを目指さなければ、人口が減り続けている流れを止めることはできないし、出て行った若い世代を呼び戻すことも難しい。

●委員

- ・雪の問題は市民全体が問題と認識している。隣近所に対応できるといいが、やはり自分の家のことで精いっぱいになってしまう。雪のことを相談できる窓口があるといいと思う。雪下ろしの時期や、業者に頼んだときの費用などを教えてほしい。

●委員

- ・雪下ろしの値段も業者の言い値になっている。行政に尋ねても、結局、直接業者に問い合わせないと値段が分からなかった。せめて目安が分かるものがあると、安心して頼むことができる。

●委員

- ・雪下ろしについては高齢者を対象にした悪徳業者も出てきている。3万円で雪下ろしと言いながら、実は1人3万円で、3人で9万円になったケースも聞いている。雪下ろしの時期には、広報してほしい。
- ・行政の様々な施策の中で、エコミュージアムでは各団体の自立を促し、定住化促進では移住にも力を入れているが、その後テイクオフするまでのフォローやバックアップを行政や関係機関でできないかセットで考えてほしい。なんでもよろず相談などの組織化、地域コミュニティへのテコ入れなど行政としてできることをやってほしい。

○事務局

- ・今の意見を参考にしながら、移住した後の雪下ろしや除雪などのケアも含めて、移住促進の重要なテーマとして位置づけて、移住者に対する雪対策を考えていきたい。
- ・第5次総合計画の中でも雪対策や地域コミュニティ支援などは大きな柱としてとらえて、長期的な計画の中で実施していく。

●委員

- ・平成21年度の実績としては、移住者4家族9人、問い合わせ85件、見学会7家族12件でいいのか。見学会に参加した7家族うち移住4家族ならとても多いと思う。

○事務局

- ・見学会は年中受け付けている。ただ、移住して、定住して、成功してもらうまでをセットで考えているので、即決を求めるといよりも、まず「ワーキングホリデー」への参加等を促している。勝山の雪を見てから考えてほしいと助言することもある。

●委員

- ・移住後のフォローが市としての制度、ルールになっていないので、これがしっかりと制度化されれば、移住者の安心感に繋がると思う。

●委員

- ・内部評価は5だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし

恐竜王国推進事業（ダイノソーバレー構想）

●委員

- ・日本ジオパークに認定されたことによるメリットはなにか。

○事務局

- ・県が進めるダイノソーバレー構想といかにタイアップしていくかがスタートとなった。昨年申請をし、平成21年10月に登録された。成果としてはこれからとなるが、ジオパークを使ってまちおこしをしていこうという動きが活発になってきている。ジオパークには、ジオパークを使って地域の経済的な発展につなげていこうという大きな考えがある。ジオパークを観光戦略の中の大きな柱として活用し、いま、市が実験的に開催しているツアーや商品開発を、勝山市内の経済的な発展につなげていきたいと考えている。

●委員

- ・ジオパークに登録されたことが、評価のポイントなのか。

○事務局

- ・平成21年春の段階では、日本ジオパークへの申請や登録が不透明だったため、調書において目標としては明記しなかった。しかし、ジオパーク登録により、「恐竜を活かしたまちづくり」は大きく前進したと考えている。

●委員

- ・エコミュージアムもそうだが、言葉が市民に認知されるまで随分と時間がかかった。市民にまだ認知されていないものを、どのように活用していくかが問題。現在、ジオパークに登録されたことで、様々な雑誌などで紹介され、大きなPR効果はあった。ただ、メリットを市民に分かりやすく説明して、周知していかないとジオパークとして身近に感じる事ができない。

○事務局

- ・平成22年度から、恐竜水やステッカーを配布して内外にPRを始めたところ。総合計画の中にもジオパークの基本計画を落とし込んでいく。今までも、恐竜を活かしたまちづくりというイメージはあったが、今後は、勝山市が主体的に取り組むことができる外向きのアピールのツールとしてジオパークを活用していきたい。

●委員

- ・ジオパークを分かりやすく日本語で言うとどうなるのか。横文字だと分かりにくい。

○事務局

- ・「大地の公園」となる。

●委員

- ・ジオパークに登録することで勝山市が県の恐竜博物館との連携を強化できたことが、今後、「恐竜を活かしたまちづくり」を進めていくうえで、評価してもいい点。

●委員

- ・内部評価は5だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし

組織目標管理の推進

勤務評価制度の推進

●委員

- ・政策の基本目標を定めることで、職員個人の目標を設定し、勤務評価をしているという流れでよいか。

○事務局

- ・政策基本目標管理で、約200の施策をPDCAサイクルで進行管理している。部でそれぞれの目標が決まると、課の目標、グループの目標、個人の目標と順次決めていく。個人が目標を達成することで、グループや課の目標が達成され、政策が進行していくというサイクルになっている。そして、個人の勤務評価に帰ってくることになる。外部評価もこのサイクルを管理する一部と位置付けている。

●委員

- ・今は、制度の枠組みが作られて、その中に職員が入って動かしているということか。

○事務局

- ・政策目標や組織目標が回り出して、そこに勤務評価が遅れて入ってきた。政策目標や組織目標の達成状況などが勤務評価に跳ね返ることを予告したうえで導入した。平成21年度から主査級以上の昇給や勤勉手当に返ってきている。

●委員

- ・部署によって見えやすかったり、見にくかったりして、非常に難しい。

●委員

- ・勤務評価制度の推進に対する評価は、結果が出ているのに厳しいものになっている。

○事務局

- ・勤務評価制度は、どんなに頑張っても完全なものではないとの考えがある。

●委員

- ・外部評価は、部や課などの評価に反映されるべきものだが、個人の評価に反映される恐れはないか。

○事務局

- ・現在、60項目を抽出して外部評価にかけているが、外部評価を下げたからといって、それが個人の給与に反映されることはない。

●委員

- ・組織目標管理の内部評価は5だが、これでよろしいか。

●委員

- ・組織目標管理は、勤務評価と平行に進めていくべきもの。より良い制度に向けて改善を行っていくというのは当然のことなので、勤務評価制度の推進の評価が4になっているが、5でもいいのではないか。

●委員

- ・組織目標管理の評価を4にする考えもある。

●委員

- ・組織目標管理や勤務評価は常に改善を要するものであるとの考えがあるのなら、これをもとに評価することができるのか。目標が達成されたかどうかで評価すべき。

●委員

- ・勤務評価制度の評価理由に、“より良い制度に向けて改善を行う必要がある”となっており、これに合わせて、組織目標管理の評価も4でいいのではないか。
- ・組織目標管理の推進の評価、勤務評価制度の推進の評価、それぞれを4とする。

政策評価制度の推進

●委員

- ・女性登用率を上げるとあるが、なぜ高めたかったのか。理由によって評価の考えが変わる。

○事務局

- ・さまざまな審議会の女性登用率が上がらないなかで、総合行政審議会の男女比率はなんとか

50 : 50にしたかった。他の審議会では女性登用率が低いため、男性の意見に偏りがちになっている。女性登用率が高い当審議会からの意見には貴重な女性の声があり、いろいろな視点からの意見を行政に活かすという視点で、よい結果が得られていると考える。

●委員

- ・女性登用率を高めたことによって、具体的にどのような良い反映がされたのかが評価理由にあるとよい。

●委員

- ・内部評価は4だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし

以上